

2025 年度入学者受入れの方針(AP)に照らした大学入学者選抜の取組の適切性に関する検証

総合福祉学部 福祉行政学科

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学びの志ふり返り(学科/研究科専攻の入学者受入れの方針)」のデータを活用して AP に照らした入学者選抜の適切性の検証を行った。学科の入学者受入れの方針については、本学ホームページの「教育方針」(左記 URL 参照)。 <https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dswa.html>

福祉行政学科では、アドミッション・ポリシーに基づき「学びの志ふり返り」について マイステップの 6 項目を 6 件法によって調査し、それらを 1~6 点に換算して平均値を算出した。質問は①【学習意欲】(社会福祉、環境・都市問題に関し深く学びたい)、②【地域の発展への貢献】(地域自治や地域社会に関心を持ち、地域の発展に寄与したい)、③【県や市町村のしごとへの関心】(県や市町村のしごとについて深く追究したい)、④【主体性・協働性】(主体性をもって人びととともに学びたい)、⑤【問題解決力】(福祉と行政の観点から考察し、問題を解決できるようになりたい)という「学びの志」を測定した。これにより、アドミッション・ポリシーにそった学生を選抜できているかを検証した。

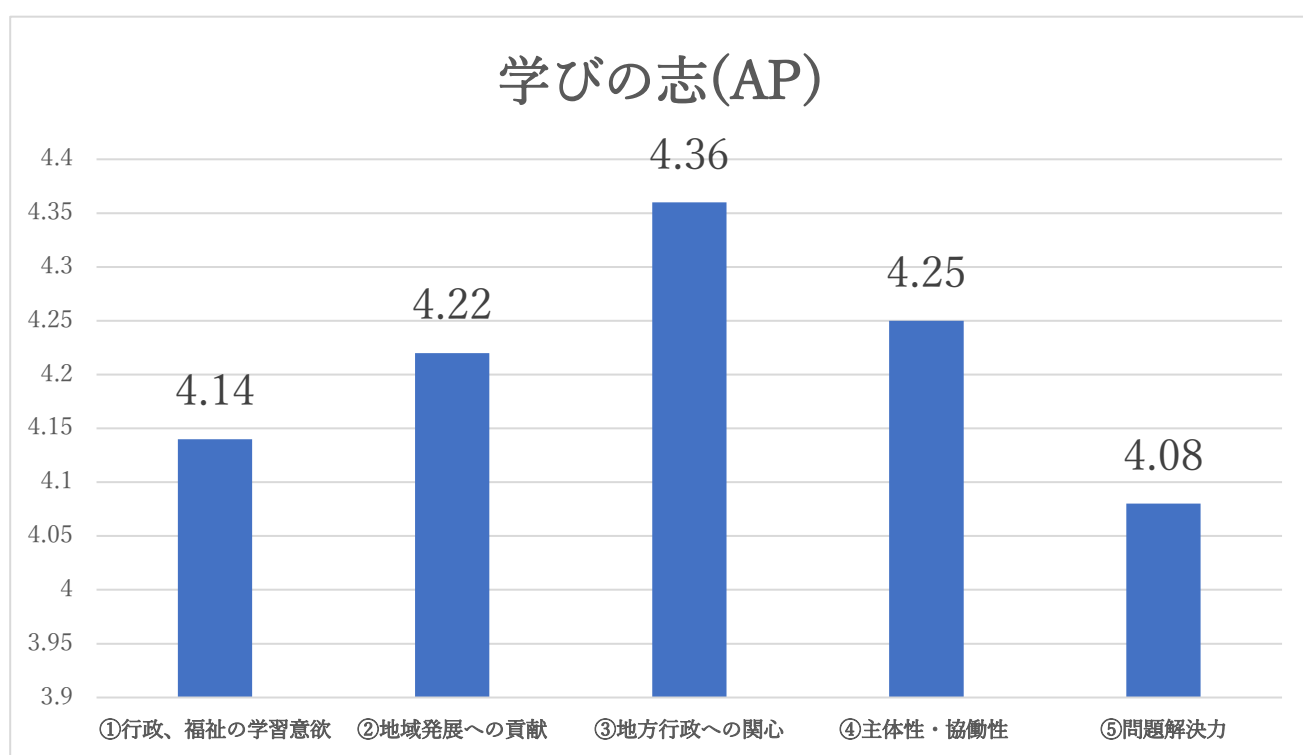
調査は新入生 128 名 に対して 6 月に「福祉行政入門」の講義内で行い、回答者は 115 名、回答率は 90% であった。各項目のスコアは以下である

① 学習意欲	平均 <u>4.1</u> (前年 4.4) -0.3	④ 主体性・協働性	平均 <u>4.3</u> (前年 4.7) -0.4
全くそう思わない	1% (+1%)	全くそう思わない	0%(-1%)
そう思わない	9% (+4%)	そう思わない	5% (+4%)
あまりそう思わない	7% (+2%)	あまりそう思わない	12%(+8%)
ややそう思う	47% (+9%)	ややそう思う	43%(+13%)
そう思う	31% (-6%)	そう思う	32%(-19%)
非常にそう思う	5% (-2%)	非常にそう思う	8%(-3%)
② 地域の発展への貢献	平均 <u>4.2</u> (前年 4.5) -0.3	⑤ 問題解決力	平均 <u>4.1</u> (前年 4.5) -0.4
全くそう思わない	1% (±0%)	全くそう思わない	1%(+1%)
そう思わない	10% (+8%)	そう思わない	7%(+5%)
あまりそう思わない	9% (+2%)	あまりそう思わない	18%(+6%)
ややそう思う	39% (+4%)	ややそう思う	40% (+8%)
そう思う	32% (-12%)	そう思う	26% (-17%)
非常にそう思う	11%(±0)	非常にそう思う	8% (-3%)
③ 県や市町村のしごとへの関心	平均 <u>4.4</u> (前年 4.2) +0.3		
全くそう思わない	2% (+1%)		
そう思わない	6% (+2%)		
あまりそう思わない	9% (-4%)		
ややそう思う	32% (±0)		
そう思う	37%(+3%)		
非常にそう思う	15%(+9%)		

その結果、5 項目の平均値は **4.1**、それぞれの平均値も **4.1 以上**と、「ややそう思う(4)」相当の回答が得られた。このことから 2025 年度の入学生においては、アドミッション・ポリシーに基づいた適切な学生の受け入れが実施されていると判断できる。

しかし前年と比すと、各項目の数値がかなり下がっている。唯一スコアの改善している「③県や市町村のしごとへの関心」は今年度より文言を変えて理解しやすくしたため、その効果の影響が推測されているため、全体的に新入学生の「学びの志」は低下していると推測される。

その要因の考察としては、今年度は入学受け入れ者数がかかなり増加し、競争が易化したことがこれに影響しているのかもしれない。定員を 28 名越える学生を受け入れたため、本来は選別されるべき学生も合格している可能性が高い。今後は学生受け入れに当たって、より適切にアドミッション・ポリシーの高い学生に集まってもらえる入試制度を学科で話し合っていく。またカリキュラム・ポリシーを通じて高い意欲を持つ学生を更に伸ばしていき、ディプロマポリシーで保証される人材を世に排出できるように努めていく。



【自由記述】(主なもの)

- ・将来消防士として活躍していくために、資格の取得や地域の活性化などのコミュニケーションの場を作り出すことが必要だと感じました。
- ・もっと全体的に興味を持ちたい。
- ・地域の発展についてもっと取り組んでいきたいです。

改善点

- ・入試方法(特に面接基準)について、学科 FD ワークショップ等で検討する
- ・効果的な広報について考え、その改善を図る
- ・入学センターと、歩留まり率を含めたボーダーラインの打ち合わせを密にする。